

2009年度新潟地域若者サポートステーション

の活動内容と課題

※事業実施状況 2009年4月～2009年7月（詳細「別紙1」参照）

- ・新規登録者数 57人（開所以降累計513人）
- ・相談件数 571人（月平均143件）（1日平均7件）
- ・来所者数（本人）2,753人（月平均688人）（1日平均34人）
- ・進路決定者数 22人（進路決定者割合：38.6%）
- ・開所以降累計 154人（進路決定者割合：30.0%）

I、2009年度（4～7月）の活動内容

1、全体状況

サポステ開設3年目の本年は、前年度の利用者増加の傾向を引き続き維持している。09年4月から09年7月末現在、新規登録者数57人（開所以降累計513人）、相談件数571件（月平均142件）は、引き続き高い利用率を確保できていると考える。（別紙1）その原因としては①マスコミの活用（別紙2）②ハローワークからのリファー（地の利）③ネットワーク形成の成果などが挙げられる。サポステに初めて来所された若者や保護者からは「このような施設を知らなかった」「新聞を見てやってきた」などサポステの知名度の低さを認識させられた。今後、引き続きPR活動が必要である。私たちは、サポステを訪れた1人ひとりへの対応を「カウンセリング」「講座」「職業講話」「ジョブ・トレーニング」「居場所」「就労支援」「フリースペース」「リレーション」という形で支援していきます。

3年目に入り、サポステが失敗してもまた再挑戦する力をつける「ベースキャンプ」としての機能と利用者の個別対応で「自立プログラム作りのお手伝い」の機能を充実し、進路決定を確実に高めていきたい。

2、「相 談」

7月末現在、相談件数571件（月平均143件）。カウンセラー、臨床心理士という専門性をいかしての当事者の担当を配慮する「あなたの課題と一緒に解決していきましょう」「利用者の話をじっくり聴く」という基本姿勢。「できるだけ、次回の相談の予約を入れる（次回来所してもらうことが最大の課題）」などに気をつけてきた。訪問相談先（アウトリサーチ）は6件。今後訪問相談、その依頼は増加傾向にあるため体制を含め強化したい。

3、「講 座」

Workworktalk（職業講話）は8回77人が参加した。仕事や職業にとらわれず、ユニークな体験談をテーマに取り組んでいる。（別紙3）
シゴト場たずね隊は職場見学で4回35人が参加した。視野を広げるテーマにテレビ局、裁判所などユニークな職場を見学させて頂いた。
新講座として「話し方講座」は4回シリーズが好評で9月から毎月1回の定例での開催が決定。コミュニケーションセミナーは15回94人が参加。ゲームを取り入れたき「気づき」であいさつ・笑顔の力と人との和を学んでいる。
今後も自立のキッカケとなる気づきの場を提供していきたい。

4、「ジョブ・トレーニング」

4事業所に14人（1週間～3ヶ月間）の実績だった。ジョブ・トレ受け入れ協力事業所は37事業所と増えつつあるが、若者支援の理解を広めることが今後の課題である。今後はジョブ・トレから就労へつなげる事業所の開拓・説明活動が必要である。

また、新潟県中小企業同友会のご協力により、10月には同友会利用者と合同の企業見学開催を予定。同友会女性部が活動方針に「サポステとの交流」を入れていただき、前年に引き続き会員企業家の皆さんとの交流会を開催予定。同友会会員企業全体にジョブ・トレが普及していくよう今後も営業活動を強化したい。

5、「就労支援」

同じ館内に「ハローワーク」「若者しごと館/ジョブカフェ」が入っており、月1回の「打ち合わせミーティング」を行っている。特に、ハローワークのライター担当、ジョブカフェの相談員と連携し、職業紹介等就労支援を行っている。進路決定者は7月末現在22人。うち就職者は21人（正社員2人、そ

の他 19 人)、職業訓練が 1 人、進学が 0 人、その他 0 人。ハローワーク、ジョブカフェからのリファー者も多く(新規登録者の約 3 割)、立地「地の利」に感謝しなければならない。「サポステの利用者でこういう特性があります」ということを企業に伝えたいと、面接、「試し就労」を受け入れてくれる事業所開発が必須である。

また、今秋開設が予定されている、ささえあい生協の「コミュニティ・カフェ事業」の就労体験と積極的に連携していきたい。

6、「居場所・フリースペース」

「居場所」を毎週木曜日の午後、総合福祉会館を借りて、計 17 回開催し、195 人が参加した。さらに今年は「女性の居場所」を月 2 回運営、8 回開催し、70 人が参加した。「フリースペース」には平均約 34 人の参加があり、次の展開が必要となっている。「調理実習」「バーベキュー」「街中ウォーキング」「スポーツデー」等の活動体験も行った。サポステの利用者は、サポステに来るまでは引きこもりの状態であったものが多い(約 9 割)。したがって社会経験が極端に少なく、友人を持たず、対人関係に苦手意識を持つ者がほとんどである。

こうした若者が就労していくためには、時間と社会経験が不可欠で、各種ボランティア体験/ジョブトレ/アルバイトをはじめ、社会体験につながっていくよう心がけていきたい。

また、今秋開設が予定されている、ささえあい生協の「コミュニティ・カフェ事業」に地域の居場所機能もあり、積極的に連携していきたい。

7、「リレーション」

ハローワーク、ジョブカフェ、「ライズ」(発達障がい者支援センター・新潟県)、「障がい者生活相談センター」(新潟市)、「アシスト」(障がい者就業・生活支援センター/新潟市)、「新潟テクノスクール(発達障がい者対象の職業訓練)」(新潟県)、「こころの健康センター」(新潟市)等の機関と利用者を介した、連携を進めている。リファー総数は 33 件。そのほとんどは、両機関でサポートを継続している。

8、「保護者セミナー・保護者会」

「保護者セミナー」は 6 月と 7 月、2 回連続セットで実施し 28 人が参加。「新潟サポステ保護者の会(保護者会)」を 1 年目に設立(サポステが事務局)、毎月第 2 日曜日定例開催している。課題はひきこもりの格差(ひきこもりの状態)が拡大しているため進め方を含め再検討する予定。

9、ネットワーク形成

7月26日(日) サポステ開設2周年記念シンポジウムを開催し、参加者は96人であった。今後とも年2回のシンポジウムを定例化し、ネットワーク形成に力をいれていきたい。具体的連携としては新潟障害者職業センターの主催連続講座に、はじめてサポステ利用者が出席。今後の課題としてはネットワーク連携先との行事の共催、マスコミの事前PR、当日取材の呼びかけ強化によるサポステの知名度アップを図ることなどがあげられる。

II、課 題

1、「次の居場所」の展開

「居場所・フリースペース」の利用者増加に対処しなければならない。利用者増加に伴い、スペースが手狭になっていること。また、その状況は初心者には利用しにくいものとなっている。最初、うつむき加減で訪れる利用者も半年、1年とサポステのメニューを経験することにより「元気を回復」してくる。こうした「元気を回復」した利用者のためのサポステ以外の居場所を「次の居場所」と呼んでいる。当面して「次の居場所」を以下のように定め、利用者の誘導を検討している。(サポステ利用も併用)

- 「若々衆ら・サポートネットにいがた」が運営する「秘密基地」の継続発展。
「秘密基地」は「居場所」を運営しながら「仕事づくり」を含め、サポステ利用者の自立支援を追求していただいている。
- 「NPO法人 ボランティア亀田」が運営する「地域の茶の間 シャベリーマ」
ボランティア亀田は、高齢者の「居場所」と「たすけあい事業(病院への付き添い、買い物 etc)を行ってきたが、新規スペースで「異年齢交流の居場所」として「地域の茶の間 シャベリーマ」の運営を始めた。「たすけあい事業」を展開していることから、ボランティア(お祭り手伝い)→ジョブトレ(パソコンインストラクター)→アルバイト(ろうそくシール張り)→就労支援の場として、サポステ利用者が常時利用し、元気を回復している。
- ささえあい生協の「コミュニティ・カフェ事業」との連携を強化して、利用者の自立支援に結びつける。

2、理解あるジョブ・トレ先の開拓

ジョブ・トレ先が37社に拡大できたが、理解あるジョブ・トレ先(利用者と、利用者の自立支援を理解)は、サポステの営業と説明の努力不足が指摘されている。各業種1社の理解あるジョブ・トレ先の開拓をテーマに、今

後とも挑戦していきたい。

また、ささえあい生協の「コミュニティ・カフェ事業」との連携を強化して、利用者の就労に結びつけたい。

3、利用者の就労の場の開拓

労協センター事業団は仕事おこしの協同組合であることから、サポステ利用者の就労の場を他に頼るだけでなく、就労の場の創出を考えていきたい。

4、利用者のサポステ利用長期化傾向

利用者の自立までの時間が長期化しないために、サポステ内リファー（相談担当者替え）と特に長期化傾向にある利用者には「自立プログラム作成支援」を推進したい。

5、職員のレベルアップ

サポステ職員のカウンセリング技術のレベルアップを図るため、所内技術研修、社外研修、資格取得を今後とも積極的に推進したい。

新潟地域若者サポートステーション 事業実施状況

2009年4月～

(7/9～)

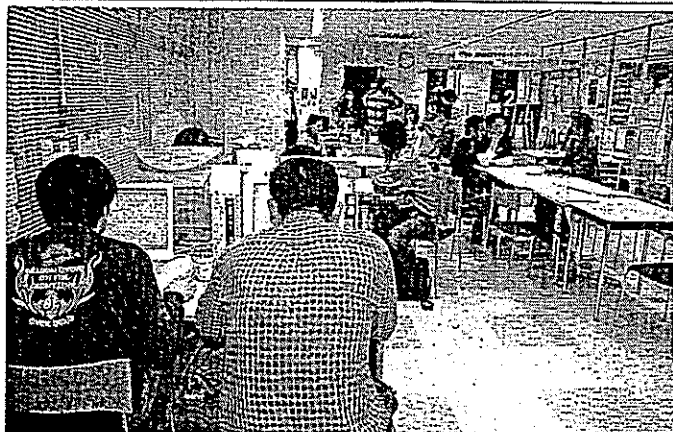
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	07年度計	08年度計	全合計
来所のべ数	663	645	831	829									2968	3221	7090	13279
本人	635	590	777	751									2753	2774	6757	12284
保護者	25	52	36	50									163	340	317	820
その他	3	3	18	28									52	107	16	175
受付カード数(新規登録者数)	15	15	11	16									57	241	215	513
相談件数	118	137	159	157									571	1149	1512	3232
うち来所	101	109	137	127									474	883	1238	2595
本人	14	20	21	19									74	119	121	314
保護者	0	0	0	0									0	2	3	5
その他	3	6	1	9									19	92	94	205
うち電話・メール	0	2	0	2									4	49	48	101
本人	0	0	0	0									0	4	1	5
保護者	195	160	245	183									783	1387	2258	4428
その他	189	136	239	160									724	1240	2106	4070
セミナー参加人数	6	21	6	23									56	136	111	303
本人	0	3	0	0									3	11	27	41
保護者	22	19	19	21									81	145	220	446
その他	6	11	5	11									33	30	55	118
セミナー実施回数	11	3	5	3									22	45	87	154
リファール数	11	3	4	3									21	40	69	130
進路決定者数(a+b+c+d)	2	0	0	0									2	6	13	21
うち就職者(a)	9	3	4	3									19	34	56	109
正社員	0	0	1	0									1	1	12	14
それ以外	0	0	0	0									0	4	5	9
うち職業訓練(b)	0	0	0	0									0	0	2	2
うち進学(c)	0	0	0	0									0	2	0	2
高校	0	0	0	0									0	1	0	1
大学・短大	0	0	0	0									0	1	0	1
大学院	0	0	0	0									0	1	3	4
専門学校	0	0	0	0									0	0	0	0
その他	0	0	0	0									0	0	0	0
うちその他(結婚等)(d)	0	0	0	0									0	0	1	1

若者サポートステーション・08年度

来所者が大幅に増加

進路決定 国基準上回る40%

ニートや引きこもりなど就労が難しい若者の自立を支援する「新潟地域若者サポートステーション」の二〇〇八年度の実績が十二日、まとまった。来所者は延べ七千九百人、月平均は五百九十一人だった。グラフ参照。不況に伴い雇用環境が厳しさを増す中、同ステーションでは若者たちに就労の機会を与えてほしいと、企業を回り受け入れ協力を呼び掛けている。



若者の自立を支援する「新潟地域若者サポートステーション」。2008年度は来所者が増加した＝12日、新潟市中央区弁天2

同ステーションは〇七年七月に開所。新潟市が委託する労働センター事業団新潟事務所が同市中央区弁天二のハローワークプラザ新潟「若者」と館内で運営している。〇八年度の月平均の来所者は前年度の三百五十八人から大きく増加。進路が決まった人は、正社員、アルバイト、進学などを含め計八十七人だった。新規登録者に占める進路決定者の割合は40・5%と、国基準30%を上回った。

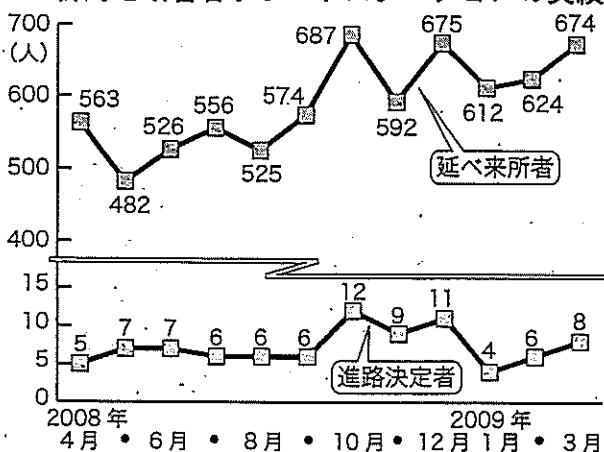
しかし、昨秋以降の急速な景気後退の影響も出ている。同ステーションは「景気悪化でアルバイトの求人数が減った上、

失業者が条件を下げ、アルバイトでもいいから職に就きたい」と求めたことで一層厳しくなった」と危機感を抱き、若者の

就労を受け入れる企業の開拓を進めている。現在、若者の職業訓練を受け入れる企業数は二十八社だが、そのうち就労の受け

入れ先は七社と少ない。企業を直接訪問するなどして協力を求めていく方針だ。また新規登録者が減少しているため、市や民間団体などと連携し、相談を希望する家庭への戸別訪問を増やす。同ステーションの竹葉節二所長代理は「まずは心の準備をして元気になることが優先。家から出ることができない人もいると思うが、家族も含め相談に来てほしい」と話している。同ステーションは、平日午前十時～午後六時。利用は無料。問い合わせは、025(2)550099。

新潟地域若者サポートステーションの実績



講座関係の実績

(2009年4月～7月)

講座名	内容	回数		参加人数
work work talk	職業講話・人生体験談	2回/月	8回	77人
シゴト場たずね隊	職場見学	1回/月	4回	35人
コミュニケーションセミナー	対人関係を円滑にするためのトレーニング	1回/週	15回	94人
サポステ・クラブ	グループで行う体験活動	1回/週	16回	142人
ワークショップ	自己理解を深めるアートセラピー	1回/月	3回	16人
スポーツ・DAY	体力作りと仲間作り	1回/月	2回	30人
基礎学習講座	一般常識と算数、漢字など	2回/月	8回	41人
保護者会	保護者同士の情報交換と学び	1回/月	4回	25人
保護者セミナー	仕事に就いていない子どもに、どのように対応するかを学ぶ	2回/年	1回(2日間)	28人
話方教室	自己表現方法の習得と人前で話す練習	不定期	1回(4日間)	57名
スライド上映会	世界各地の若者の様子をスライドを見ながら学習し、見聞を広める	不定期	1回	12名
	合計		63回	557名